

乳牛の鳥インフルエンザ アップデート

2026 年 4 月末時点

かやの

おさらい

2024 年にアメリカで、乳牛の鳥インフルエンザ感染事例が世界で初めて報告されました。感染が確認された鳥インフルエンザは高病原性鳥インフルエンザ（Highly pathogenic avian influenza: HPAI）といい、A 型インフルエンザに分類されます。HPAI は日本でも野鳥やニワトリなどの家禽産業に甚大な被害を与え、卵の品薄や高騰は私たちにも影響を及ぼしています。乳牛の感染が初確認されてから、一農場もしくは一部の州だけではなく、米国中に感染事例が拡がりました。ヒトやその他の哺乳類への伝播事例も報告されています。今回は 2026 年 4 月末時点の状況をまとめたいと思います。

アメリカの状況

アメリカでは 2024 年の乳牛のケースが報告されたのちに監視・検査体制を強化し、USDA（米国農務省）や CDC（アメリカ疾病予防管理センター）などが中心となりデータをまとめてきました。今回の記事はそれらのまとめを参考にしています。

- ヒト-ヒト感染は確認されていない
- 米国内における公衆衛生的リスクは低い
- 感染が確認されたウシ： 1093 頭
- 感染が確認されたヒト： 71 人
- 死亡事例（ヒト）： 2 人

ヒトで感染が確認された 71 人の内訳ですが、41 人が酪農関係者、24 人が養鶏やと場関係者などとなっており、**半分以上が酪農場で働く人たち**であることが分かっています。過去 30 日間でも数頭ですが乳牛の鳥インフルエンザ感染が報告されており、感染はいまだ収束していません。ですが、図1にあるように、2024 年には 917 例の報告がありましたが、2025 年は 171 例、2026 年は 4 月末時点で 5 例となっており、感染が拡大傾向にないということはいえそうです。一方で、図 2 からわかるように、西側の多くの州で感染が確認されました。これは、乳牛の飼養頭数・密度や渡り鳥の関連も指摘されています。

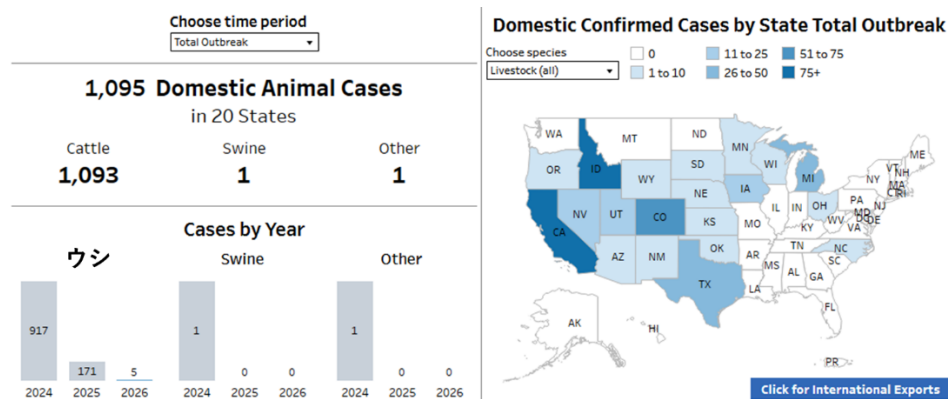


図1. 動物別のHPAI累積感染報告事例

図2. 州別のHPAI乳牛累積感染報告事例

CDC, A(H5) Bird Flu: Current Situationの図を一部改変

いくつかの感染に関するエビデンス

野鳥や野生動物が感染に関与していることは明らかなようです。野鳥-乳牛だけではなく、乳牛-鶏、乳牛-他の哺乳類の感染事例の報告があり、“感染が(異種間で)拡大するような遺伝適応”がウイルスで起きる可能性が指摘されています。感染イベントが多いほど、それだけウイルスに進化のチャンスを与えてしまいます。そのため、感染報告数が減少している現状を踏まえると、そうしたリスクは低いといえます。なおオランダでも乳牛から HPAI ウイルス抗体が検出されています（ウイルス自体は検出されず）。引き続き、日常的な清掃・消毒を心掛けていきましょう！